

TOPICS
2

トピックス…②

鈴木稔氏が農林水産祭・日本
農林漁業振興会会長賞を受賞

農林水産省は10月15日、農林水産祭中央審査委員会(会長 鈴木和夫氏)において、平成26年度(第53回)農林水産祭の天皇杯、内閣総理大臣賞および日本農林漁業振興会会長賞の受賞者が決定したことを発表した。畜産部門からは、酪農家の鈴木稔氏(岩手県滝沢市)が日本農林漁業振興会会長賞に選ばれた。

農林水産祭とは

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善および経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されている。今年度の天皇杯、内閣総理大臣賞および日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間(平成25年8月～平成26年7月)の農林水産祭参加表彰行事(301件)において、農林水産大臣賞を受賞した509点の中から決定された。

各賞は、農産部門、園芸部門、畜産部門、蚕糸・地域特産部門、林産部門、水産部門、むらづくり部門の7部門から選ばれる。なお、今年度は7部門の三賞受賞の中で、女性の活躍が著しい1点に対して、輝く女性特別賞が授与される。畜産部門では、茨城県の佐藤宏弥・博子夫妻が天皇杯、山梨県の農業生産法人・黒富士農場(代表：向山茂徳)が内閣総理大臣賞、岩手県の鈴木稔氏が日本農林漁業振興会会長賞に決定した。

日本農林漁業振興会会長賞に選ばれた鈴木稔氏は、第31回全農酪農経営体験発表会において農林水産大臣賞を受賞した。表彰は、勤労感謝の日(11月23日)に明治神宮会館で開催される農林水産祭式典において行われた。

鈴木稔氏の受賞理由

鈴木稔氏の酪農経営の特徴は、「工夫・努力と共助で所得アップ、地域貢献する資源循環酪農」と要約することができる。同氏の受賞理由は次の通りである。

① 収益を高める牛づくり

鈴木農園は、性選別精液や性判別受精卵を利用し、乳牛の改良速度を速めることにより、泌乳能力の高い優れた牛群づくりを行ってきた結果、高水準の生産性を維持している。また、優秀な雌牛生産のために、発情開始時期を的確に把握して、早めの人工授精を実践することにより、後継牛を安定的に確保している。さらに、泌乳能力が平均以下の乳牛には和牛や交雑種を受胎させ、副産物販売により高収益を得ている。

② 酪農を支える堆肥処理

良質な堆肥の製造に取り組み、平成10年からは販売を始めた。現在、堆肥製造部門は鈴木農園における資源循環経営を支える重要な柱となっているとともに、貴重な収入源でもある。

③ 若手酪農家のリーダー

鈴木稔氏は地元の乳牛改良同志会副会長として、共進会や研修会を開催するほか、同志会会員の各牧場の施設

平成26年度農林水産祭受賞者(畜産部門)

	出品財	受賞者		表彰行事
		住所	氏名等	
天皇杯	経営 (肉用牛)	茨城県 常総市	佐藤宏弥 佐藤博子	平成25年度全国優良畜 産経営管理技術発表会
内閣総理 大臣賞	経営 (採卵鶏)	山梨県 甲斐市	農業生産法人 黒富士農場	第43回日本農業賞
日本農林漁業 振興会会長賞	経営 (酪農)	岩手県 滝沢市	鈴木 稔	第31回全農酪農経営体 験発表会

鈴木稔氏の経営概況

鈴木稔氏は平成9年に父親が経営する鈴木農園に就農し、平成19年に牛舎を増築した後、本格的に酪農経営に参画した。鈴木氏の経営は、経産牛1頭当たり平均乳量が9,300～9,400kgと高く、乳質、とくに衛生的品質水準が優れているという特徴がある。また、乳牛の繁殖成績も高く、平均種付け回数は1.6回である。

鈴木農園の収入のうち75%以上を生乳が占めており、残りは個体販売と堆肥販売が主要な収入源となっている。平成24年の収入は原発事故の影響もあり、前年を下回ったものの、平成25年には同事故前の水準を上回るまでに回復し、その後も順調に増加している。

改修などに協力するなどユニークな活動を行っている。また、地域貢献活動として、30年以上にわたり障害者の雇用や社会復帰の手助けを行い、牛乳消費拡大活動にも積極的に参画している。

④ 今後の発展方向

体型的、能力的にも優れた乳牛づくりに取り組んできた結果、現在は個体販売にも力を入れている。近年は販売頭数が増加するとともに、1頭当たり販売価格も上昇傾向にあり、収益性はさらに高まることが予想される。また、近隣の畜産農家の堆肥を処理し、販売する構想もあり、今後さらなる発展が期待できる。